

文化財保存・地域 計画策定について



林 悦子 議員

問

文化財保護法改正で、市町村が同計画を策定できることになった。桜川市は歴史の違う「郡違い」の合併だが、それぞれの特徴を知りたい。

答

教育部長 桜川インター付近から、弥生時代の700軒以上の住居跡が確認された。岩瀬盆地は生産力が高く、栃木・水戸・石岡・土浦を結ぶ交通の要であった。

その為、常に中央権力が支配に絡み、平安期は後白河上皇の蓮華王院、鎌倉期は、幕府中枢・安達氏の領地に

その後も、足利・佐竹・多賀谷・結城・宇都宮の各氏のもと、富の集積の一方で戦乱が繰り返された。一級の文化財はあるが、古文書が少なく、非常に複雑で捉えにくい歴史といえる。

他方、大和・真壁の加波山西麓には、律令期に、白壁（真壁）郡が置かれた。雨引観音、大国玉神社は古代の拠点の一つだが、鎌倉以降、真壁氏（常陸平氏）の勢力下に入る。

戦乱の舞台となる期間は少なく、関ヶ原後この地に入った、浅野氏（忠臣蔵で有名）によって、江戸初期には街並みが完成し、現在の伝建地区に繋がっている。理解しやすい歴史と云える。

問

発掘整備には、市民の深い理解が必要。真壁城跡の歴史的价值とは何か。

答

教育部長 まず、保存状態が極めて良い。国内の本格的な庭園遺構は、豊臣秀吉が朝鮮出兵の拠点とした、肥前名護屋城（佐賀県唐津市）と、真壁城の二つしかない。

佐竹氏に随行した真壁氏も肥前で過ごし、朝鮮に渡った経緯があり、作庭の関連性も浮かがる。

更に、真壁城下の町割りが残り、浅野氏と真壁氏に由来した、古文書が数多く残る。

戦国時代にあつて、真壁氏を守り通した、400年に及ぶこの地域の立地性を活かすまちづくりを、目指している。今後は、情報発信と、利活用にも力を入れていきたい。

令和2年8月